

CT検査におけるV/S比とは？

内臓型肥満はその体型からリング型肥満とも呼ばれています。皮下脂肪型肥満に比べ、糖尿病、脂質異常症、高血圧症などの生活習慣病を合併しやすい肥満です。

肥満を正確に見分けるためには、CTスキャンを用いて腹部断面積を撮影し、腹腔内臓脂肪(V)と皮下脂肪(S)の面積比を出して、V/S比を求めます。

(V/S比：実際は全体脂肪面積に占める内臓脂肪の比率)

V/S比：皮下脂肪型肥満 < 40% 内臓脂肪型肥満 ≥ 40%

当院では、専用ソフトによる解析が可能です。腹部CTの御依頼の際、内臓脂肪測定と書いて頂ければ、CT読影レポートと解析結果をお送りいたします。糖尿病など、運動療法をされる方のフォローアップにいかがでしょうか。

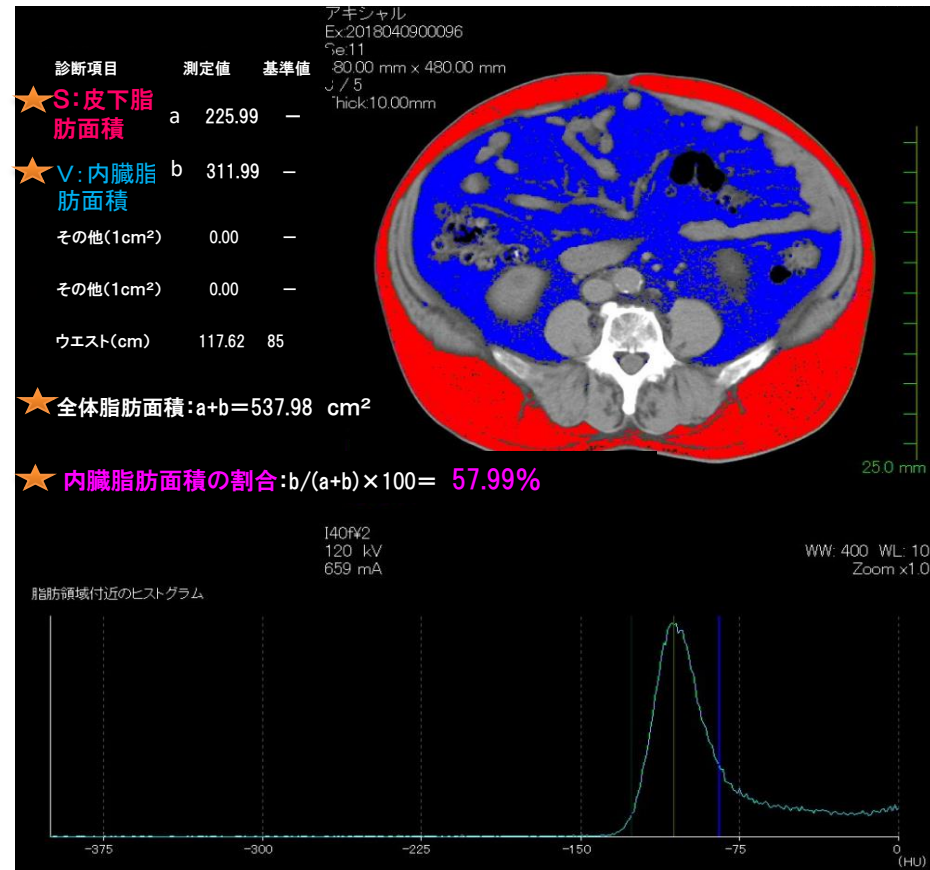
1 CTで内臓脂肪の測定

皮下脂肪と内臓脂肪の両者を分けて、視覚的に分かりやすく、測定することができます。内臓脂肪測定検査は日本内科学会ほか8学会共同で策定した、メタボリックシンドロームの診断基準にて、「CTスキャンなどで内臓脂肪量測定を行うことが望ましい」と付記されています。

2 解析内容

- ① 臍(へそ)の位置で、解析を行います。
- ② 正確に皮下脂肪と内臓脂肪を分離計測します。
- ③ 結果では、皮下脂肪・内臓脂肪・ウエストが、標表記されます。

3 専用ソフトによる解析例



上記の形式で、御提供致します。
また、CT画像と同じように、サーバーにも送りますので、「うすき石仏ねっと」でも御利用できます。

* CT・MRIの機能や撮影画像について、情報提供を定期的に行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

不明な点がございましたら、放射線部までご連絡お願いいたします。